

会 議 録

会議の名称	第2回 鴻巣市立小・中学校統合準備委員会
開催日	令和6年8月29日(木)
開催時間	開会 18時00分 閉会 19時30分
開催場所	吹上生涯学習センター 研修室
議長(委員長・会長) 氏 名	会 長 清水 励
出席者(委員) 氏 名 (出席者数)	清水励(会長) 棚澤大輔(副会長) 福山功、吉野徳子、木村真輔、江藤大輔、須田佑季子 大野里恵、小林久恵、中野志穂、高山美奈子、小川美加 原口登、坂本日出男、友永幸子、石田恵子 (16名)
欠席者(委員) 氏 名 (欠席者数)	庄田薫、矢部奈美、小林洋一、兼杉享介、新井直子 (5名)
事務局職員 職 氏 名	教育総務課長 松本直樹 教育総務課主査 新井洋平 教育総務課主任 堀智紀
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 閉校式典について (2) 閉校記念誌について (3) 登下校支援について (4) 交流事業について (5) PTA組織について (6) 学校跡地の利活用について 4 その他 5 閉 会
配布資料	資料1 閉校式典(案) 資料2 閉校記念誌構成及び配布部数(案) 資料3 スクールバス運行方法及び通学路(案) 資料4 交流事業について

(決定事項)

- ・閉校式典の日時は、3月26日(水)終業式終了後とする。
- ・閉校式典の会場は、小谷小学校体育館とする。
- ・閉校式典の内容は、基本的に笠原小学校及び常光小学校と同じ内容とする。
- ・閉校式典における議員等の招待については、学校、教育委員会で検討する。
- ・閉校記念誌の構成は、資料2のとおりとする。
- ・閉校記念誌の配布部数は、小谷地域自治会加入世帯分 960部、吹上生涯学習センターでの配布分 250部、小谷小学校教職員分 25部、小谷小学校児童分 100部、市内小・中学校分 25部の合計 1,360部とする
- ・スクールバスの乗降場所、運行方法、通学路(赤見台第二小学校及び箕田小学校)は、資料3のとおり進めることとする。吹上小学校への通学路はPTAを中心に協議を進める。
- ・次回の統合準備委員会は11月頃に開催予定。具体的な日程は、各事業の打合せの進捗状況を判断して改めて連絡する。

(主な意見)**議題(1) 閉校式典について**

- ・閉校式典にて、小谷ささら獅子舞を披露することは可能か。
- ⇒閉校式典の時間を多少延ばすことは可能。小谷小学校と協議する。

議題(2) 閉校記念誌について

- ・昭和33年頃に小谷小学校は全焼している。それ以前の卒業生名簿は残っているのか。
- ⇒残っている。
- ・卒業生名簿や歴代PTA会長の氏名の掲載について、掲載の有無の確認はとるのか。
- ⇒笠原、常光の際と同様に確認はとらない。(PTA会長は公人と同様の取り扱いと考える。卒業生名簿は100周年記念誌にも掲載)

議題(3) 登下校支援について

- ・小谷地域にてスクールバスを運行する年数は。
- ⇒令和7年3月31日時点で、小谷小学校に在籍している児童が吹上小学校を卒業する令和12年3月31日までとし、それ以降は徒歩又は保護者の送迎で通学することとする。
- ・スクールバスが令和11年度までしか運行されないことから、兄弟でどちらの学校に通学させるか迷っている保護者の声がある。
- ⇒当初は、小谷の全地域の指定校を吹上小学校とし、スクールバスで登下校支援をする方針としていた。しかし、徒歩で通学できる場所に小学校があるのかという意見があり、鴻巣市立小・中学校審議会等で検討した結果、指定校を3校に分けている。また、在校生については、途中で別々の学校に別れてしまうことへの心情的な負担に配慮し、吹上小学校への通学を認めることは妥当とし、また、その際には、児童の登下校における安全確保の観点から、教育委員会で定める基準に基づき、スクールバスを活用した送迎対応をすることとしている。このように、スクールバスは在校生が卒業するまでの

特例的な対応となっていることから、現時点で運行年度を延ばすことは考えていない。

・赤見台第二小学校に通学する児童が極端に少ないと思われるが、今後入学する児童は保護者の送迎となるのか。

⇒現在、小谷地域から赤見台第二小学校へ通学している児童は何名かいる。通学班の集合場所まで送迎するのか、小学校まで送迎するのかは保護者の考え方によるものと考えている。家庭から集合場所までの距離と通学方法の検討に関しては、この地域に限った話ではなく、他の地域でも同様の事例はあり、保護者にお任せしている。

・スクールバスに乗り遅れた場合はどうするのか。

⇒出発時刻になったら、バスは出発する。何事にも一定の基準は必要となることから、遅刻前提でスクールバスの運行ルールを定めることはできない。子どもたちには出発時刻の5分前には乗降場所に来るように家庭でも指導してもらいたい。

・乗降場所に向かう途中で、事情があり、遅れてしまった場合の対応が事前に決まっていれば保護者も安心するのではないか。今後、検討してもらいたい。

・カフェ・アドマーニ前の横断歩道に設置する予定の横断歩道に手押し信号を設置してもらいたい。

⇒手押し信号の設置についても警察には要望を出した。しかし、それに対する警察の回答は、まずは横断歩道を設置し、その使用状況等に基づき、必要性があれば、手押し信号の設置について検討するのが一連の流れであり、横断歩道のないところに手押し信号はつかないとのこと。教育委員会としても、横断歩道だけではなく、手押し信号の設置もしてもらいたいと考えているため、今後も要望はだしていきたい。

・箕田小学校や赤見台第二小学校に通学する児童も小谷学童を利用することは可能なのか。

⇒（小谷学童）両校にもそれぞれ放課後児童クラブが設置されており、希望者が全員入室できる状態。両校の児童の小谷学童への入室を許可する場合、バス等での送迎対応が必要となるが、現時点では難しいことから、吹上小学校の児童のみの対応を考えている。

・スクールバスへの乗車の際は、名簿等での照会が行われるのか。

⇒名簿を作成し、一人ずつ点呼をとり、チェックをした上で乗車をさせている。

・乗車するのは運転手のみなのか。

⇒基本的には運転手のみ。

・運転手の年齢は。

⇒年齢は一概には言えない。健康状態等、業者が採用基準を設けて責任をも

って運転手を採用している。

・バスケットボール大会等の行事の際、スクールバスは運行されるのか。
⇒学校の行事として行われるものについては、原則スクールバスを運行する。
また、災害等により始業が遅れる場合などにも対応する。

議題（４）交流事業について

・保護者による吹上小学校の見学会はいつ頃を予定しているのか。
⇒２学期中には実施したい。また、子どもたちの授業の様子も見てもらいたいと考えている。

・吹上小学校の校舎内に小谷小学校のコーナーを設けて、統合準備委員会や交流事業の様子を掲載したいと考えている。

議題（５）PTA 組織について

・吹上小学校 PTA との顔合わせを 9 月 24 日（火）に、小谷小学校の PTA 臨時保護者会を 10 月 19 日（土）に実施したいと考えている。

議題（６）学校跡地の利活用について

・小谷小学校の用途を学校から教育支援センターに変更するにあたり、埼玉県の越谷建築安全センターに事前相談をしているとのことだが、その回答はいつ頃になるのか。

⇒８月中に回答をもらえる予定となっている。

・今後の施設活用方法について、もう少し詳しく説明してもらいたい。
⇒教育委員会では、主としての活用方法は、現在、川里ふるさと館にある適応指導教室や教職員向けの研修を実施する施設として整備したいと考えている。

その他、空き教室等にて、吹上保健センターの代わりとなる健診等の会場、夏季休暇中の放課後児童クラブ、体育館や校庭の学校開放、民間団体による教育支援の活動場所等、複合的な施設として活用していきたいといった案もある。

また、教育支援センターとなった場合は、職員が常駐することから、地域からの要望にも応えることができるものと考えている。

・芝生はどうなるのか。
⇒今後も芝生の維持管理団体に協力いただき、維持管理していきたいと考えている。

・学校の畑はどうなるのか。
⇒民地をお借りして、畑として活用している。学校の閉校と合わせて、持ち主にお返しすることになる。

・駐車場の整備は行うのか。
⇒教育支援センター等にて活用する場合、駐車場の整備は必須事項と考えている。現在、関係各課や業者と調整中。

・消防団が統合され、新たに小谷小学校の敷地内に機械器具置き場が新設されることだが、場所はどのあたりを検討しているのか。

⇒危機管理課が調整している。これまでの検討の中では、正門左手、すべり台等の遊具付近や、体育小屋付近、プール付近等が候補地として挙げられていると聞いている。

・遊具はどうなるのか。残してもらいたい。

⇒意見は様々であるため、いただいた意見を踏まえて、どこに整備するのが最善なのか調整が必要。

遊具のある場所に整備する場合は、遊具の撤去又は移設が必要になる。

・小谷小学校は周辺に公園がない。遊具は残してもらい、公園としても活用できるようにしてもらいたい。

・学習塾等に家庭の事情で通えない子どもたちがいる。市でこのような家庭向けに勉強をする機会、場所を提供しているのか。

⇒教育委員会では行っていない。各公民館を活用し、NPO 団体等が実施しているケースはある。

・市としても、学習機会の確保に対して、力を入れて取り組んでいるのではないか。

・子どもたちの教育、知的好奇心を育てることはとても大切。このような取組を行うことで、将来的に、子どもたちから市に還元されるものも多くあるのではないか。各公民館で実施しているような事業の情報を手に入れることが難しい家庭も多い。市でしっかりと発信して、勉強をしたい子どもたちに向けた学習環境の整備に力を入れてほしい。

・放課後子ども教室はどうか。

⇒とても良い取組で、帰宅後、子どもたちも楽しそうに話しをしてくれることがある。しかし、学習機会の確保とは異なる取組ではないか。

・教育支援センターの移転を機に、従来の教育支援センターのあり方ではなく、新たな教育支援センターのあり方を見直す良い機会ではないか。